



「菜の花から資源循環型社会へ」と題して講演する保田氏

2 23日 まちを変える 菜の花エコ

菜の花エコプロジェクトを広く普及していくため菜の花エコ交流会in田原を開催しました。講師に保田哲博氏(NPO法人INE OASA理事長)を迎えた基調講演では、広島県北広島町大朝おおあさで取り組んでいる休耕地への菜の花栽培、特色ある米(びゅあ菜米)作りなどが紹介されました。また、梅谷勝利氏(NPO法人豊田・加茂菜の花プロジェクト会長)と安田和司氏(NPO法人田原菜の花エコネットワーク副理事長)が加わったトークセッションでは、参加者がそれぞれの取り組みに関心を寄せました。



交差点を鮮やかに彩った福江地区のシンボル「菜の花歩道橋」

2 27日 “菜の花橋”は まちづくりの架け橋

福江町に菜の花歩道橋がお目見えしました。これは、福江・清田地区にある唯一の歩道橋をまちのシンボルにしようと「福江地区まちづくり会議」が立案し、地元の方などの協力を得て実現に至ったもの。歩道橋を特殊シールで飾るといって新しいアイデアで、まち中に鮮やかな菜の花を咲かせました。地域の「まちは変わる」という思いが形になった菜の花歩道橋。その完成を皮切りに、福江地区は新たなまちづくりへ第一歩を踏み出しました。



間伐材を利用した取り組みは、里山の保全につながります！

2 23日 自然にふれあい 守る里山

里山の自然に親しみ、保護への理解を深めてもらおうと里山の自然学習ときのこの菌打ち体験を衣笠コミュニティ広場などで開催しました。参加した約50名の皆さんは、津具森林組合員らによる指導のもと、衣笠の森などから切り出した間伐材へのシイタケ・ヒラタケ・ナメコの菌打ちを体験。生えてくるのを楽しみにしながら菌を打ち込んでいました。また、冬の雑木林や里山の自然について学び、その大切さと尊さを肌で実感していました。



牛の樹山に桜の木を植える担任の先生と児童ら

2 26日 地域の宝 桃色に染まれ！

亀山小学校の総合学習の一環として、6年生(卒業生)20名が牛の樹山うしけに一人一本分の桜の木を植樹しました。これは、地元うしけの山をいつまでも大切にしたいと願う『うしのけ山を愛する会(会長・山本喜一郎さん)』の皆さんの協力により行っているもので、同校の卒業記念による植樹は今年で2回目。子どもたちは、「牛の樹山は亀山のシンボル。ここで桜の木が大きくなるのが楽しみ」と、ふるさとの山へ愛情を込めて植えました。